

## セデック語の語順頻度：コーパスに基づく分析

楊棟文、徐小曼、小泉政利

東北大学文学研究科

yang.dongwen.p7@dc.tohoku.ac.jp

**要旨** 本研究では、台湾原住民言語の一つでオーストロネシア語族に属するセデック語の語順使用頻度について分析を行った。セデック語は基本語順がVOSであり、態の変化により多様な語順が可能で、文脈に応じて主語が省略されることもある。本研究は特に、態、語順、主語の省略、副詞類の出現位置に焦点を当て、セデック語の自然発話データを用いた分析を実施した。研究方法としては、「Pear Film」描写データから抽出したセデック語タロコ方言の他動詞文を対象に、態（動作主態、目的地態、移動物態）、語順（VOS, SVO, VS, VO, SV, V）、副詞類の出現位置と頻度を分析した。結果として、動作主態が最も頻繁に使用され、語順ではVが最も一般的であること、項省略が多く見られること、態により副詞類の出現位置に異なる傾向がみられることが明らかになった。この研究はセデック語の構文選択に関する理解を深め、セデック語研究に貢献するものである。

キーワード：セデック語 語順 コーパス言語学 副詞類

## 1. はじめに

セデック語は台湾原住民諸語の一つであり、オーストロネシア語族に属する。この言語は、基本語順がVOSで、対称態をもつ（Aldridge 2004、月田 2009）。対称態システムにおいては、態を変えることによって英語や日本語より広い意味範囲を持つ名詞句が主語になれる。動作主（例（1a））や受動者（例（1b））だけでなく、場所（例（1c））、受益者（例（1d））、道具（例（1e））も主語になりうる<sup>1</sup>。動作主態（AV）、目的地態（GV）、移動物態（CV）の3つの態が存在し、そのため、動詞の形から主語が担う意味役割をある程度推測できる。

(1) a. k-em-erut babuy ka masaw.

AV-cut pig. OBL NOM Masaw

‘Masaw slaughters a/the pig.’ (Agent)

b. keret-an masaw ka babuy.

cut- GV2 Masaw.gen NOM pig

‘Masaw slaughters the pig.’ (Patient)

<sup>1</sup> 本稿で用いられる略語は以下の通り：AV-Actor Voice, CNJ-Conjunctive, CV- Conveyance Voice, DIST-Distant, GV2- Goal Voice 2, GEN-Genitive, NFIN-Non Finite, NOM- Nominative, NS-New Situation, OBL-Oblique, PROG-Progressive, PROX-Proximant,, PRF-Perfect, PST-Past, SUB-Subject, 1S- first person singular, 3S- third person singular.

c. keret-an laqi sagas ka keti'inuh ni'i.  
 cut-GV2 child.GEN water.melon.OBL NOM board this  
 'The child cuts water-melon on this board.' (Location)

d. se-kerut babuy masaw ka baki.  
 CV-cut pig.OBL Masaw.GEN NOM old:man  
 'Masaw slaughters a/the pig for the old man.' (Beneficiary)

e. se-kerut babuy masaw ka putiN.  
 CV-cut pig.OBL Masaw.GEN NOM knife

'Masaw slaughters a/the pig with the knife.' (Instrument) (Tsukida 2012)

セデック語においては、文脈から明確である場合には、様々な要素を省略することが可能である。これには主語の省略も含まれる（例（2））。また、話題化によって主語が文頭に移動し、SVO 語順になることもある（例（3））。

(2) s-em-en-ipaq=ku huliN.  
 AV-PRF-hit=ls. NOM dog. OBL  
 'I hit a dog.' (月田 2009: 272)

(3) rubiq 'u, m-en-sa kariNku sehiga.  
 Rubiq CNJ AV-PRF-go Hualien. OBL yesterday  
 'As for Rubiq, she went to Hualien yesterday.' (月田 2009: 144)

副詞類は文中の様々な位置に現れるが、種類によって生起位置が決まっている。語順の自由度は低いため、動詞文で副詞表現が現れる可能性がある場所は以下の通りである。

(4) [前 副詞表現 [動詞句 動詞 副詞表現 非主語項] 副詞表現 主語 副詞表現 語気表現]  
 (月田 2009: 311)

これまでセデック語に関する様々な研究が行われてきた。しかし、自然発話を研究対象とし、文型の使用頻度に注目した研究はほとんどない。そこで本研究では、セデック語の自然発話データを用い、特に態、語順、主語の省略、副詞類の出現位置といった様々な文型の使用頻度に焦点を当て、セデック語における構文選択の解明に向けた一歩とすることを目的とする。

## 2. 方法

本研究では、以下の手順に従ってセデック語タロコ方言の分析を行う。

### ➤ データの選定

本研究では、セデック語タロコ方言の話者による「Pear Film」の描写データ（月田 2018）を使

用する。このデータは、セデック語の話者である二人が「Pear film」を観てセデック語で話した内容を記録したものである。データは形態素に分割され、それぞれの形態素にはグロスと日本語訳が付けられている。

#### ➤ 他動詞文の抽出

分析の第一歩として、疑問文、自動詞文などを除外し、他動詞平叙文をデータから抽出する。

#### ➤ 態と語順の分析

抽出した他動詞文を基に、態（動作主態、目的地態、移動物態）と語順（VOS, SVO, VS, VO, SV, V）を個別要因とし、それぞれの使用頻度を算出し、セデック語における文の構造と態の特徴を探求する。

#### ➤ 副詞類の分析

さらに、他動詞文に含まれる副詞類を特定し、その出現位置と頻度を分析する。本研究では、「述語とその項」以外の任意の文構成要素を「副詞類」と定義する。副詞類の出現位置については、月田（2009）の分類に基づき、述語の前、動詞の直後、非主語項の後・主語の前、主語の後、動詞句の拡張、その他に分類する。

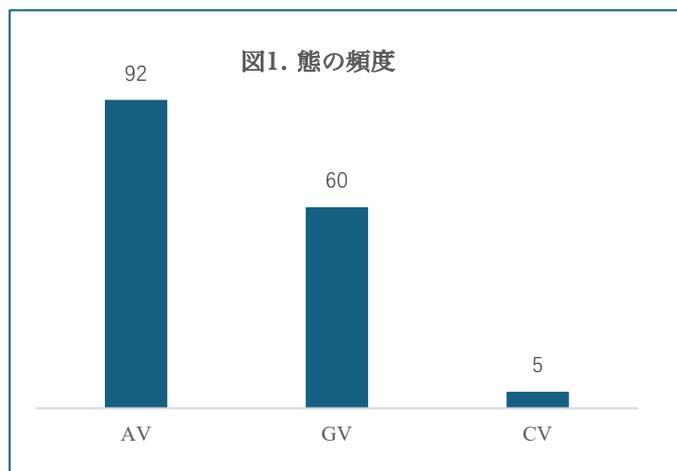
以上の手順を踏まえて、セデック語タロコ方言における他動詞文の構造、態の使用、語順の特徴、副詞類の位置と頻度に関する包括的な分析を行う。この分析により、セデック語の文法的特性と言語使用の複雑性についての深い理解を目指す。

### 3. 結果と考察

セデック語の他動詞文における態（動作主態、目的地態、移動物態）、語順（VOS, SVO, VS, VO, SV, V）および副詞類の使用頻度について分析を行った。抽出された157の他動詞平叙文を対象にした分析結果は以下の通りである。

#### 3.1. 態の分析

態の使用頻度に関する結果を図1に示す。動作主態（AV）が92回（58.6%）、目的地態（GV）が60回（38.2%）、移動物態（CV）が5回（3.2%）である。

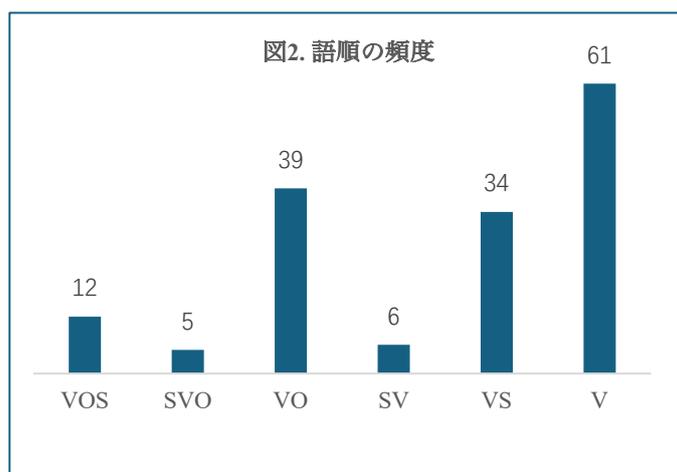


三種類の態の使用頻度について、カイ二乗検定を行い、有意であることが確認された ( $p < 0.05$ )。AVが最も頻繁に使用されていることを示している。月田 (2009: 175) によると、GVの他動詞文における割合が27%であり、本研究の結果と一定の整合性が確認される。

### 3.2. 語順の分析

セデック語の他動詞文においては、理論上6種類の表面的な文型、すなわちVOS, SVO, VS, VO, SV, Vが存在する。実際のデータ分析においても、この全てが確認された。これら6種類の文型の出現頻度の調査結果を図2に示す。VOSが12回、SVOが5回、VOが39回、SVが6回、VSが34回、Vが61回である。特にVが61回 (38.9%) で最も一般的であり、次いでVOが39回 (24.9%)、そしてVSが34回 (21.7%) となった。各語順の出現頻度について、カイ二乗検定を用いて統計的に分析した結果、有意差があることが示されている ( $p < 0.05$ )。

項省略の例は138回 (89.2%) に上り、セデック語の他動詞文における項省略の高い頻度を示している ( $p < 0.05$ )。また、主語省略 (100回、63.6%) と目的語省略 (101回、64.3%) の頻度はほぼ同じである。カイ二乗検定によって主語省略と目的語省略の頻度を比較した結果、有意差があるとは言えない ( $p > 0.05$ )。



### 3.3. 態と語順の関係の分析

AV, GV, CVそれぞれの語順の分布は表1の通りである。AVではVが最も頻繁 (31回、33.7%) に用いられ、VO (24回、26.1%) およびVS (20回、21.7%) の語順も一般的である。GVでは、V (29回、48.3%) が最も多く、VS (14回、23.3%) とVO (12回、20.0%) がそれに続く。CVはデータが少ないが、VO語順が主流 (3回、75%) である。態ごとの語順分布の違いを検証した。CVのデータが少ないため、分析にはAVとGVのみを使用した。その結果、有意ではないことが示された ( $p > 0.05$ )。AVとGVの間に語順の分布の傾向に違いは見られない。

項省略について、AVとGVにおける主語省略と目的語省略の分布に微妙な差が見られるため、主語省略と目的語省略の出現頻度について統計検定を行った。その結果、有意な差異は見られな

かった ( $p > 0.05$ )。したがって、AVとGVの間で主語省略および目的語省略の選択に顕著な差異があるとは言えないことが確認された。

表 1. AV, GV, CV それぞれの語順の分布

	VOS	SVO	VO	SV	VS	V	Total
AV	9	5	24	3	20	31	92
GV	3	0	12	2	14	29	60
CV	0	0	3	1	0	1	5
Total	12	5	39	6	34	61	157

### 3.4. 副詞類を含む他動詞文の分析

セデック語における他動詞文に含まれる副詞類の位置とその頻度を分析した結果を、図3に示す。総計79文のうち、副詞類の出現位置は態によって異なる傾向を示している。AVでは副詞類が最も頻繁に「主語の後」に現れる（28回、57.1%）、次いで「動詞句の拡張」に出現する例も観察される（11回、22.4%）。GVでは「動詞句の直後」に最も多く見られ（10回、35.7%）、「動詞句の拡張」にも一定数存在する（9回、32.1%）。CVにおいては、副詞類の出現例が極めて限られているが、動詞の直後（1回、50%）、主語の後（1回、50%）が確認される。月田（2009）によると、セデック語には述語の前に生起する副詞類が2つあるが、今回のデータには現れなかった。

CVの副詞の出現例が少ないため、AVとGVにおける副詞の出現位置について統計検定を行った。その結果、AVとGVにおける副詞の出現位置の違いは統計的に有意であることが示された ( $p < 0.05$ )。さらに残差分析を行った結果、特に「動詞の直後」（調整済み残差2.72）と「主語の後」（調整済み残差3.04）における副詞類の出現頻度に有意な違いがあることが確認された。

AVの文は新しい状況を表現することが多く、そのため主語の後に文全体のモダリティを示す副詞類が頻繁に使用される。一方、GVの文では動作に焦点を置いて、動詞を修飾する副詞が多く、その副詞類は動詞句の直後に配置されることが一般的であることが判明した。

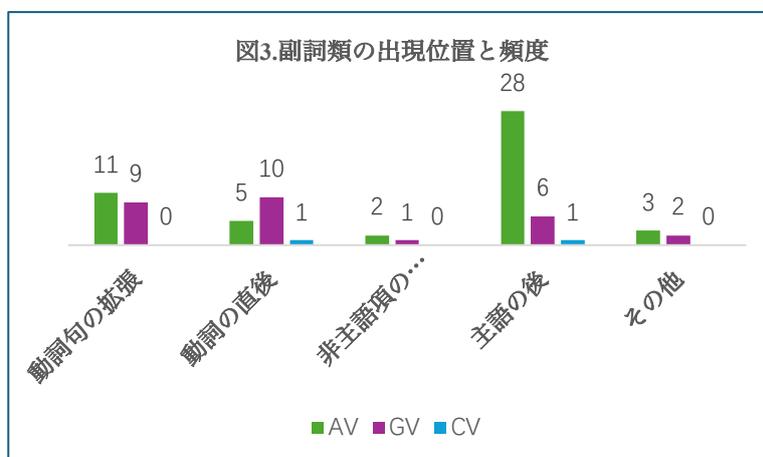


表2. カイ二乗検定の結果

項目	$\chi^2$	<i>df</i>	<i>p</i>	<i>Cramer's V</i>
三つの態の使用頻度	74.00	2	8.533e-17	0.49
各語順の出現頻度	93.36	5	1.324e-18	0.34
項省略	9.22	1	0.0024	0.25
主語省略と目的語省略の頻度	0.02	1	0.89	0.01
態ごとの語順分布	4.82	5	0.474	0.13
態による項省略の分布傾向	0.19	1	0.666	0.05
副詞の出現位置	11.78	4	0.019	0.20

表3. AV・GV副詞類出現位置の残差分析

位置	AV 調整済み残差	GV 調整済み残差
動詞の直後	-2.72	2.72
非主語項の後・主語の前	0.11	-0.11
主語の後	3.04	-3.04
動詞句の拡張	-0.93	0.93
その他	-0.17	0.17

#### 4. 結論

- セデック語は対称態システムを持つが、態の分布は対称的ではなく、AVが優勢であり、CV態はほぼ使用されない。
- セデック語では態の種類に関係なく、項省略が一般的に起こる。
- 副詞類の分布は態によって異なる傾向を示している。特にAVでは「主語の後」に副詞が多く現れる傾向がある一方で、GVでは「動詞の直後」に副詞が多く現れる傾向がある。

#### 謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP19H05589, JP24H00085 の助成を受けたものです。

#### 引用文献

- Aldridge, Edith (2004) Ergativity and word order in Austronesian languages. Doctoral dissertation, Cornell University.
- Tsukida, Naomi (2012) Goal Voice and Conveyance Voice of Seediq. In: Nakamura and Kikusawa (eds.) *Objectivization and Subjectivization: A Typology of Voice Systems*, 77-96. Osaka: National Museum of Ethnology.

月田尚美 (2009) 「セデック語の文法」博士論文, 東京大学.

月田尚美 (2018) 「セデック語話者によるPear film」『愛知県立大学外国語学部紀要 言語・文学編』50: 291-322.

付表1. AVとGVの語順と例文

	AV	GV
VOS	Wada m-angal hiyi qehuni ka laqi nii. PST AV-take fruit tree SBJ child PROX この子供たちは果物を取る。	biq-un=na yabas ka teru hiyi. give-GV1=3SG.GEN guava SBJ three body 3人にグアバを渡した。
SVO	se'ediq nii 'u, gaga m-angal hiyi qelupas. person PROX CNJ DIST.PROG AV-take fruit pear このひとは、桃の実を取っている。	なし
VO	ga m-angal qelupas. PROG.DIST AV-take pear 取っている。	sekengal-un=na rawa. do:one-GV1=3SG.GEN basket 籠を一つずつ運ぶ。
SV	papak=na, ga me-luqih. foot=3SG.GEN DIST.STAT AV-get:hurt 足が、怪我した。	laqi nii, ngal-an m-esa. child PROX take-GV2 この子供は取った。
VS	'ida ga l<em>amu ka se'ediq nii na. surely PROG <AV>pick SBJ person PROX still まだこの人は摘んでいる。	'ini qelih-i ka hiyi nii. NEG hurt-GV.NFIN SBJ fruit PROX この実を傷つけない。
V	m-pika da. AV-lame NS びっこをひいている。	biq-an=na, give-GV2=3SG.GEN あげた。

付表2. CVの語順と例文

	CV
VO	sa-'apa tederuy kahaw. CV-load car rake 自転車に載せる。
V	se-pelawa=na duri. CV-call=3SG.GEN again 呼んだ。